

レポート添削見本

講師添削型レポート

客観式問題と記述式問題を組み合わせたレポートです。テキストから学び取ってほしい知識やスキルを正しく理解し、さらにこれを応用できるかどうかを確認するものです。講師添削型レポートでは、ご受講者お一人おひとりの解答内容に応じて、各分野の添削指導講師が実務に即したきめ細かい個別指導を行っています。

※このレポート添削見本は、あるコースの一例です。コースによってはコンピュータ採点型レポートを併用している場合があります。

通信研修レポート問題

科目名 財務情報のマネジメントへの活用(1)

科目コード _____ レポートNo. _____

受講者の皆さまへ

- レポートは在籍期間内に提出ください。
- 巻頭の所定事項について記入漏れがないか、レポート提出用シールの貼り忘れがないか、解答の記入漏れがないか、お確かめください。
- レポートに落丁などの不備がありました場合は、レポートを提出される前に、通信研修サポートセンターまでご連絡ください。
- レポートの提出方法などの詳細は「学習のしおり」をご参照ください。
- 本レポートに記入されている個人情報および解答内容は、レポート送達や添削指導の目的以外には使用いたしません。

添削指導を行う際に、参考にさせていただきます。ぜひご記入願います。

勤務先名	所属	年齢
		()歳

学習後の感想など、ご自由にお書きください

数学の計算だけでなく、生産性と収益性の面から、各指標をもとに分析する問題は、興味深かった。
結果指標を用いた分析は、財務分析の基本的手法の一つで、ぜひ、自分の組織に当てはめて理解を深めたい。分析することで、指標が何を表しているのかに気づいた。

講師からの総評	評点
事業活動においては、いかに多くの数字をもとに数字を金額に表され、記録され、その情報に決算書として集約されています。ありのまま意思決定の場面で、事業は基本的に情報は判断の拠りどころとなり、また、周囲を納得させる材料とならねば、今後財務情報に関心をもち、ここで学んだ財務知識をしっかりとる知識を実務で活用してください。	87
担当講師	(印)

感想に対しても必ず励みやアドバイスなどのフォローを行います。

特に留意いただきたい点をお一人おひとりの学習成果に応じてアドバイスします。

【問題4】 次の資料は、A社（食料品製造業）の貸借対当表である。次の各設問に答えよ。

貸借対当表	
資産の部	負債の部
流動資産	流動負債
現金預金 190	支払
受取手形 45	買掛
売掛金 210	短期
原材料 70	その他
仕掛品 30	固定負債
製品 72	長期
その他 65	その他
固定資産 675	純資産（
土地 380	資本
設備資産 120	資本
無形固定資産 30	利益
投資等 95	
資産合計 1,297	負債・純

注1 上記資産には経外資産 28百万円が
※経外資産とは企業本来のビジネスに
は、財務活動資産、建設設備、繰延
注2 有形固定資産減価償却累計額は 18
注3 受取手形割引高 25百万円。
注4 従業員数 78名。
注5 売上高は製品の売上のみであり、生産
注6 材料費、買入部品費等外部支払金額は、年間840百万円である。
注7 売上原価、販売管理費には人件費240百万円が含まれている。

次のA社の各比率と同規模・同業種の健全企業の経営指標とを比較した経営分析表の空欄を埋めてください。なお、金額は千円未満を四捨五入し、そのは小数点以下第2位を四捨五入すること。
[注] 下表中「加工高」とは「付加価値」と同じ意味と考えて、売上高から費に示されている外部への支払金額を控除して求める控除法によって求める。また、設備投資効率および労働生産率は、表中の算式にしたがって、分子には有形固定資産ではなく機械装置類（設備資産）を使用し、設備投資率は回で計算してください。

比率	算式	A社	健全企業の経営指標
① 経営資本営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本（総資産 - 経外資産）}} \times 100$	2.8	5.4%
② 経営資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{経営資本（総資産 - 経外資産）}}$	1.1	1.5回
③ 売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100$	2.4	3.6%
④ 固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100$	149.7	165.5%
⑤ 売上			

収益性は①=②×③
①=②×③
は着目して
分析したい
ポイントが
あるから
計算した
のだと
付す。

自職場で活かせるよう、実践的なアドバイスを行います。

(設問2) (設問1)の経営分析の結果を踏まえ、健全企業と比較したA社の生産性と収益性についての所見を示してください。なお、対応策はふれなくてもかまいません。

① 生産性に関する所見

固定資産回転率や原材料、仕掛品、製品回転率が低い傾向がある。また、機械投資効率も低いことと、過剰な在庫管理により、在庫投資が効率的ではない可能性がある。結果として、資本回転率や従業員一人当たり年間加工高が低い値を示唆している。

生産性が低いのは、④労働生産率が低い、かつ⑤機械投資効率も低いことの原因している。

② 収益性に関する所見

販売管理費は抑えられている。しかし、②高比率が完全なわけではない。人件費が占める割合が大きい。また、借入金が多いことと支払利息率の高さに現われており、経常利益を圧迫していると考えられる。

経営資本営業利益率が健全企業の半分(2.8%)で収益性が低いこと、これは経営資本回転率と売上高営業利益率とを比較して低いことの原因している。

テキストで学習したポイントを示しながら、解答内容に応じて、理解促進のためのアドバイスを行います。